# すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

KEIO UNIVERSITY HOSPITAL
Communication Magazine

Vol. 18
March 2023

ご自由にお持ちください

## 患者さんの苦痛を和らげる

さまざまな職種のスタッフが一丸となって、手術・外傷・感染・痛み・不安などのストレスから患者さんをお守りします。

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

# 安心で安全な周術期を目指して

麻酔科 医師
森﨑（もりさき） 浩（ひろし）

手術を受ける、ということは患者の皆様やご家族にとって、人生の極めて大きなイベントであり、分からないことも多く、ご不安に感じていらっしゃる方も多いのではないでしょうか？私たち麻酔科医は、**周術期管理のスペシャリスト**として、患者の皆様やご家族の不安を少しでも和らげ、安心して手術を受けられるよう、看護師や薬剤師をはじめとする数多くの医療従事者と緊密に連携をとりながら、より**安全な周術期管理**を目指して日々活動しております。

当大学病院で手術を受ける予定の皆様には、「**麻酔説明外来**」を受診していただいております。説明外来では手術内容の確認はもちろん、これまでの手術、麻酔経験の有無や病歴、生活習慣やアレルギーなどを教えていただき、それまでに受けていただいた術前検査の結果と共に、手術や麻酔上のリスクとその対策などをさまざまな角度から検討いたします。また、皆様からの疑問やご質問にも丁寧にお答えするよう心がけております。

麻酔科では、毎朝カンファレンスを行い、当日の全ての手術に関して、麻酔方法や注意点、術後疼痛対応等を全員で共有したうえで、手術センター看護師とも同様に情報共有を行っています。また、当院手術センターには薬剤師が常駐し、重要な薬剤の管理や調剤など適切な投薬に向けた対策を行っています。

患者の皆様が手術センターに入られる前には、部屋の入口でご本人確認、手術内容や部位の確認をさせていただきます。また、手術が始まる直前には術者、麻酔科医、手術センター看護師が再度手術内容と患者情報、投薬等の確認を行い、細心の注意を払っています。

このように、当院では患者の皆様に安心で安全な周術期を過ごしていただけるよう、緊密な多職種連携のもと、対応させていただいております。

# ワンチームで乗り切る高難度手術

当大学病院の2021年度の手術件数はおよそ15000件（うち麻酔科管理件数は約8000件：コロナ禍前の2019年度は9400件）で、全国でも指折りの症例数です。**特定機能病院**である当大学病院は、一般総合病院では対応が困難な手術術式にも対処しております。お子様から高齢者の方まで幅広い年齢層のさまざまな疾患の手術が、安全に実施できるようにすることは、私たち麻酔科医の使命でもあります。朝から夜間まで予定手術以外にも時間帯を問わない**緊急手術**への対応などを迫られている手術センターにおいて、**安全に手術医療を患者の皆様に提供するため**には、さまざまな職種の緊密な連携が不可欠であり、麻酔科医がそのチーム連携の中心的な役割を担っています。

具体的には、心臓血管外科手術においては手術中に患者さんの心臓と肺の代わりを一時的に担う**人工心肺装置**をよく用います。医師の指示の下に、人工心肺装置を安全に作動させ管理するのは**臨床工学技士**の役割です。その他にも、全身麻酔器や生体モニターをはじめとする高度な医療機器の作動確認や点検、回収血と呼ばれる、多量の出血を伴う手術の際に、術野の血液を回収・洗浄して体内に戻す仕組みの運用、運動誘発電位と呼ばれる、主に脳神経外科や整形外科手術中に神経への影響の程度を随時評価する検査にも、臨床工学技士が関わっています。また**薬剤師が手術センターに常駐**することで、手術中に使用される医薬品の管理や払い出し、術後鎮痛薬の調剤等が、確実かつ安全に行われています。また、当手術センター内にある高画質の血管造影装置を備えた**ハイブリット手術室**では、カテーテルを使う血管内の治療と外科手術を同時に行うことが可能となっていますが、この血管造影装置を操作するのは放射線技師です。加えて、医療機器の運搬修理や使用後の手術室を迅速かつ着実に清掃し次の手術に備える業務を担当する**技術員**の方々や手術用器械の回収洗浄・滅菌・管理を確実に行う**滅菌部門**の支えにより、当大学病院で行われる全ての手術に必要な医療資材や器械が遅滞なく供給可能となっています。

このように**難易度の高い複雑な先進的手術に多くの職種がワンチームとなって携わる**ことで、当大学病院では安全で、質の高い周術期医療を提供しています。

# 早期の社会復帰を目指して
# 術後疼痛管理チーム

当大学病院集中治療センターは、より重症あるいは複雑なケアが必要な患者さんを対象としたICU（Intensive Care Unit）16床と重症度は下がるものの一般病棟での治療が難しい患者さんを対象としたHCU（High Care Unit）26床とで運用されており、ICUでの診療を専従の麻酔科医が担っています。ICUに入室される患者の皆さんは、大きな手術後の方、事故等で複数の外傷を負われた方、肺炎、心筋梗塞や脳卒中などを含め生命の維持に必要な重要臓器の機能が損なわれた方などさまざまです。そのような重症の患者さんの多くは、複数の薬剤投与、輸血や酸素投与などの治療を必要とし、場合により呼吸を支援する**人工呼吸器**や腎臓の代わりをする持続的な**血液透析装置**、あるいはコロナ禍で国民の皆さんにも浸透した**体外式膜型人工肺（ECMO）**などの高度な生命維持装置が必要となることもあります。

高度な集中治療を必要な時に迅速かつ的確に開始し、また安全に管理するため、ICUでは日本集中治療医学会認定**集中治療専門医**資格のある麻酔科医が中心となり、各診療科専門医やICU看護師、臨床工学技士、あるいは理学療法士、管理栄養士や薬剤師など、多くの職種と常に連携・協力しながら積極的な治療を行っています。

最近では生命の危機である重症状態を単に脱するのみならず、ICU退室後に早期に、より良い状態で社会復帰が果たすことが大切なことから、極めて早い段階からリハビリや栄養状態改善を支援しています。連日、入室患者さんに**最適な早期リハビリテーションと栄養管理**について協議し、より早くより良い状態で社会復帰できるように対処しています。

手術後の痛みは手術により組織が損傷したことに由来し、手術前から存在する痛みや年齢、性別、心理社会的な要因、あるいは遺伝的要因なども影響する複合的な痛みです。かつては、手術に痛みはつきもので、痛いのは当たり前、我慢しなくてはいけないという風潮がありましたが、最近では、手術後の合併症を予防する上でも痛みは我慢すべきではないと言われています。**積極的な術後鎮痛**は、手術後の離床やリハビリテーションを早め、我々医療者のみならず、患者ならびにご家族の皆様が最も望まれている**早期の社会復帰**につながります。

一方で、鎮痛薬による副作用にも我々は注意を払っています。痛みが十分に取れたとしても、まれに、鎮痛薬の副作用が原因で、術後の療養期間が長引いてしまう可能性もあります。そのような状況をいち早く察知し、適切に対応できるように、医師だけでなく、看護師や薬剤師を含めた複数の医療スタッフで術後の経過を観察させていただいています。

当大学病院では2022年度から麻酔科医・看護師・薬剤師からなる**術後疼痛管理チーム**を発足し、それぞれの専門性を活かして手術後に持続鎮痛法を使用した患者さんの痛みの対策を支援しています。主治医チームや病棟看護師と連携しながら、患者の皆様の状態に応じて最適な鎮痛方法を選択し、より効果的に手術後の痛みを制御し、**術後の機能回復促進と副作用・合併症の予防**を図っています。多職種による連携の下、手術後の患者の皆様に安心で満足いただける質の高い周術期医療を目指しています。

# 集中治療からその後の生活を見据えて
# 集中治療室

## 臨床感染症センター

# 「臨床感染症センター」が発足しました！
## ～多様な感染症に対して多職種で立ち向かう～

新型コロナウイルス感染症により感染症は大きな注目を浴びていますが、感染症の原因はウイルス、細菌、真菌など多岐におよび、全身どの臓器、部位にも感染症は起こります。適切な診断と治療という臨床医学における基本に加えて、感染症診療では、原因微生物に特徴的な感染経路や感染力を想定した適切な感染対策やワクチンによる予防を行うことが重要です。臨床感染症センターは、感染制御部、微生物検査部門、薬剤部と協力し、感染症外来でのさまざまな感染症診療やワクチン接種、各診療科・部門の外来・入院患者さんの感染症診療支援、今世界的な脅威として注目されている薬剤耐性菌を生み出さないための抗菌薬の適正使用の推進、感染症に関わる専門家の育成を担う部門として2022年10月に発足しました。今後も地球上でさまざまな感染症が発生し、国境を超え広がる可能性がありますが、感染症にはまだまだわからないことが沢山あります。臨床感染症センターのセンター員は皆、感染症学教室にも所属しており、より良い感染症診療をお届けしながら、患者さんにもご協力いただき、さまざまな課題に取り組んで参ります。

## パーキンソン病センター

# パーキンソン病患者さんの「健康」を多職種連携チーム医療で支えます

パーキンソン病は人口の高齢化が進む中で世界的に急増している病気で、日本でも65歳以上では100人に1人がなる病気とされています。近年、多様な症状への対応、治療の複雑化、さまざまな課題を抱える高齢患者さんの急増などを背景に、パーキンソン病に対するチーム医療の必要性が高まっています。

2022年10月に発足した当院のパーキンソン病センターでは、〝パーキンソン病に対するチーム医療を推進し、安心・安全に最適かつ先端的な医療を提供し、多職種でパーキンソン病患者さんの健康を支える〟ことを理念として掲げ、複数の診療科（神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、精神・神経科、内視鏡センター）、多くの医療職種（医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、臨床心理士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー）が連携して診療にあたっています。パーキンソン病患者さんの症状は一人ひとり異なりますので、患者さん毎に適した医療（テーラーメイド医療）の提供を目指しています。従来の内服治療に加え、脳深部刺激療法に代表されるデバイス補助療法にも積極的に取り組んでおり、適応評価から手術、術後管理まで多職種連携チームで安心、安全に取り組む体制が整っています。パーキンソン病でお困りの方がいらっしゃいましたら当センター（神経内科外来）にご相談ください。

# 病院情報システム部

## 安心で快適な病院を目指して

当院では電子カルテをはじめ、約70ものシステムが稼働し診療を支えており、病院情報システム部はこれらシステムの構築や保守を行っております。

電子カルテを導入して12年目となった現在では診療に欠かせないものとなりました。24時間365日行われている医療を支え、常に安定した稼働ができるようなシステム構成を検討・構築し、導入後も現場からの質問や障害に対応できるよう、ヘルプデスクを整備し、常時運営しています。

ＩＣＴを用いた患者さん向けのサービス向上にも取り組んでおります。ＬＩＮＥアプリによる外来の待合呼び出しサービス、ＭｅＤａＣａアプリを用いた検査結果などの情報提供、患者さん用のフリーＷｉ-Ｆｉの提供、デジタルサイネージでの癒し動画や各種情報発信など患者さんが少しでも快適に過ごせるよう工夫しております。

その他、コロナ禍でも診療をサポートできるリモート電子カルテの提供や、病院の各種研究並びにバイオバンク事業がスムーズに進められるように診療情報を安心安全に利用できる仕組み作りも行っております。

一方、国内でも病院へのサイバーテロが発生しております。当院でもサイバーテロへの対策を強化しており、さまざまなアクセスを常に監視しマルウェア等の侵入を未然に防ぐ対策や、万が一被害にあってしまった際に影響を最小限にするバックアップの仕組みの導入などに取り組んでおります。

病院情報システム部では、これからもＩＣＴを用いて、安心で快適な病院を目指して取り組んでまいります。

# Information

## 患者サロン

がん相談支援センターでは「患者サロン」を定期的に開催しています。頑張っていること、工夫していることなどを語り合いませんか?皆さまのご参加をお待ちしております。最新の情報は、下記QRコードに更新していく予定です。

【2023年度開催予定】
第1回　6月8日(木)
第2回　9月
第3回　12月

最新の情報はこちらのQRコードからご確認ください。

【お問い合わせ】
慶應義塾大学病院　がん相談支援センター
電話:03-5363-3285

## 「かかりつけ医」をもちましょう

当院は高度急性期医療を担う特定機能病院です。そのため、患者さんにはお住まい近くで「かかりつけ医」をお持ちいただくようお勧めしております。日頃の診療や健康相談は「かかりつけ医」を、専門的な治療や検査が必要な際は当院をご受診いただけます。院内デジタル掲示板や右記QRコードで検索、又は2号館1階1Rの窓口を、是非ご活用下さい。

かかりつけ医
検索サイト

## WHILLについて

長距離歩行に不安のある方や足腰が不自由な方、そしてご自身で目的地まで移動することが困難な方々に、院内を快適に移動していただけるよう、車いす型の自動運転サービスを提供しています。

この度、各のりばにステーション看板が設置され、乗車場所や乗車方法、行き先がよりわかりやすくなりました。

どなたでも利用可能な無料サービスですので、ぜひ院内の移動にご利用ください。

## 2022年度患者調査ご協力のお礼

グランドオープン後初めての調査となり、励ましや嬉しいお言葉など、たくさんのご回答をいただきました。いただいたご意見に一つひとつ丁寧に取り組み、日々、安心・安全な病院を目指してまいります。調査結果は院内の掲示や、おたより、ホームページからご覧ください。

患者総合相談部
ウェブページ

**アンケートにご協力ください**

こちらのQRコードからアンケートにアクセスしていただき、広報誌すゝめで読んでみたい記事など、ぜひご意見をお聞かせください。

## COLUMN　東京都パートナーシップ宣誓制度スタートに伴う当院の対応について

「パートナーシップ関係」とは、双方またはいずれか一方が性的マイノリティであり、互いを人生のパートナーとして、相互の人権を尊重し、日常の生活において継続的に協力しあうことを約した二者関係とされています(東京都パートナーシップ宣誓制度利用の手引き)。そして、「パートナーシップ制度」とは、同性同士の婚姻が法的に認められていない日本において、市区町村等の自治体が独自に結婚と相当する関係を認め、証明する制度のことです。

2022年11月から、都において「東京都パートナーシップ宣誓制度」が開始されました。

当院では、今後、これらの証明書を持参する患者さんに接する機会が増えていくことを踏まえ、2023年1月から入院診療計画書等の署名欄の「家族」と記載されている部分に「パートナー」の文言を追記するなど、対応を開始しております。病状説明、手術等同意時にも、同席頂けるよう環境整備を進めております。

東京都パートナーシップ
宣誓制度について

Keio University

慶應義塾は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

〈受付時間・休診日〉

外来診療時間　8時40分～12時00分、13時00分～16時00分

面会時間　※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在、面会は制限させていただいております。詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。

休診日　日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 / 年末年始(12月30日～1月4日) / 慶應義塾の休日(1月10日)

※2023年9月18日(月)、2024年1月6日(土)、2024年1月10日(水)、2024年2月12日(月)は外来診療日です。

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

「すゝめ」Vol.18　2023年3月30日発行　編集・発行／慶應義塾大学病院広報誌編集チーム
慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地　03-3353-1211(代表)　URL: http://www.hosp.keio.ac.jp/